



# 総説

## 総 説

奈良県の沿革	1
県政 奈良県政年表	6
市町村変遷表	8
行政区画	12
位置、面積	12
地形	13
気象	14
人口	15
産業	17
農業	17
林業	17
工業	18
商業	20
文化・観光	21
主要山岳一覧表	23
主要河川一覧表	24

## 奈良県の沿革

### 大和は国のまほろば

紀元前3世紀頃、日本列島に稲作がもたらされると奈良盆地は豊かな米作地帯となった。大陸の高度の文化はこの地に開花し、大和の地は我が国の政治・文化の中心地として中国にならい、都城藤原京（694年）・平城京（710年）が造られ、飛鳥・白鳳・天平の輝かしい文化が醸成された。

その後、都が平安京に移ったため、一時平城の都はさびれたが、やがて社寺中心に甦り、鎌倉時代には、大和の国は興福寺・春日大社の荘園で占められるまでになった。

戦国時代、この大和の地も戦乱が絶えることなく、幾多の興亡が繰り返されたが、その後織田信長の庇護のもとにあった筒井氏が大和を統一した。

江戸時代には、綿花・菜種・小豆などの商品作物や、三輪そうめん・吉野葛・宇陀紙・奈良晒・大和餅・吉野杉などの特産品が、隣接する大消費地大坂・京都に運ばれ大和に富をもたらした。



大和三山

## 明治20年に現在の奈良県が誕生

明治維新を迎えると、慶応4年1月に大和鎮台が設置され、以後、行政区画の改廃が繰り返されたが、明治4年には大和国を統一した奈良県が成立した。しかし、明治9年堺県に合併、さらに明治14年には大阪府に合併とめまぐるしく変化し、その中で、大和の人々は奈良県の再設置を粘り強く求めつづけた。ついに、明治20年11月4日、奈良県の誕生を迎えることができた。明治21年1月9日には第1回奈良県議会が東大寺大仏殿回廊において開かれている。

明治22年4月1日の町村制施行当時、10町142村2組合村で、人口は50万人ほどであった。その後県勢の発展にともない昭和30年前後に、市町村合併が促進され、現在は、9市21町17村で、人口は約138万人となっている。

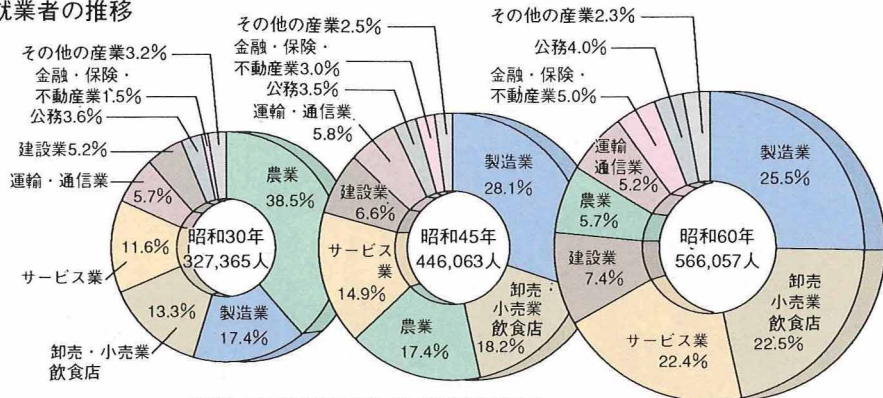


新旧県庁舎(昭和40年)

## 環境との調和を図りながら

奈良県は、気候・風土に恵まれているものの、海が無く河川に乏しいという条件もあって、明治以降も農業・林業が産業の中心であったが、昭和38年から始まった奈良県新総合開発計画をはじめとする県勢の振興計画による産業基盤の整備や公害のない工場の誘致等により急速に工業化・都市化が進み、昭和60年の国勢調査での就業者は高度成長期前の昭和30年と比べると、第一次産業は41.5%から6.4%まで減少し、逆に第二次産業は22.9%から32.9%に、第三次産業では、35.7%から59.9%と大きく増加している。人口も大都市大阪等のベッドタウンとして急増してきたが最近はやや伸び率が鈍化している。

### 産業別就業者の推移



資料：総務庁統計局「国勢調査報告」

近年、本県の主な事業としては昭和40年新県庁舎竣工、59年わかさ国体、62年置県100年、63年'88なら・シルクロード博開催等がある。

そしていま21世紀にむけて

・ ・そして昭和より平成に変わった現在、世界に開かれた文化観光・平和県をめざしている本県は、奈良県長期基本構想に基づいて各事業を積極的に行っている。特に京阪奈丘陵での関西文化学術研究都市の建設と、五條市で行われているテクノパークなら工業団地建設の両拠点づくり、リニア中央新幹線の建設促進、幹線道路の整備、シルクロードの研究拠点づくり等、21世紀にむけ力強く躍動している。とともに、かけがえのない健康と環境の問題に取り組み、明るい長寿社会にむけ人間重視のきめ細かな事業を行っている。

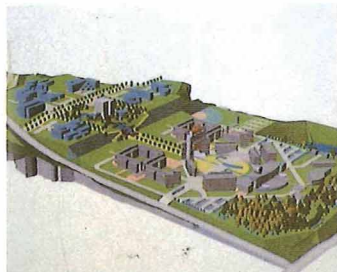


車椅子バスケットボール大会で

# 21世紀をひらく、奈良の主要プロジェクト

奈良県では、県土を大和平野地域、大和高原地域、五條吉野地域の3エリアに分け、「国際性豊かな文化観光・平和県」を目標に、21世紀に向けてのプロジェクトが、いま着々と進められています。

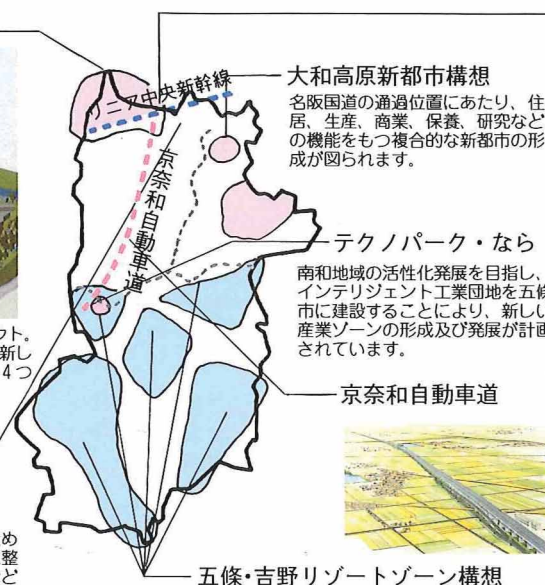
## 関西文化学術研究都市



京阪奈丘陵で進行中の大型国家プロジェクト。高度な文化・学術・研究機能の中核となる新しい都市づくりを目指して、奈良県域には4つの文化学術研究地区が整備されます。

## JR奈良駅周辺 新都市拠点 整備事業

奈良市都心地域の活性化を図るための整備事業。都市基盤を総合的に整備し、商業・業務、情報・文化などの新しい時代に対応できる多機能な都市拠点の形成が図られます。



## 大和高原新都市構想

名阪国道の通過位置にあたり、住居、生産、商業、保養、研究などの機能をもつ複合的な新都市の形成が図られます。

## テクノパーク・なら

南和地域の活性化発展を目指し、インテリジェント工業団地を五條市に建設することにより、新しい産業ゾーンの形成及び発展が計画されています。

## 京奈和自動車道



## 五條・吉野リゾートゾーン構想

五條・吉野地域の持つ自然環境や歴史資産を活用した独自性の高いリゾートゾーン形成を図る構想。

## リニア中央新幹線



東海道新幹線のバイパスとして、増大する大都市圏間の旅客輸送に処し、沿線地方都市の発展等国土の均等ある発展に貢献するためのもので、奈良県では、奈良市北部地域に用地を確保し、駅設置を要望している。

京都ー奈良ー和歌山を結ぶ高規格幹線道路。奈良県を南北に結ぶ自動車専用道路として計画され、すでにこの一部となる五條道路の事業が進められています。奈良県の背骨となる重要な道路で早期の整備が望まれています。

# 県 政

## 奈良県政年表

西 暦	年 月 日	事 項
1868年	慶応4年1月21日	大和鎮台が設置され、のち2月1日大和国鎮撫総督府と改称した。
	5月19日	奈良県を設置。(知県事に春日仲襄)
	7月29日	奈良県は奈良府と改称した。
	明治元年9月8日	明治と改元。
1869年	2年6月17 ～24日	各藩は版籍を奉還し、それぞれ旧藩を県とし知藩事を置く。(郡山県——柳沢氏15.1万石、高取県——植村氏2.5万石、柳本県——芝村県——織田氏各1万石、橿羅県——永井氏1万石、小泉県——片桐氏1.1万石、柳生県——柳生氏1万石、田原本県——平野氏1万石の8県)
	7月17日	奈良府は奈良県と改称した。
1870年	3年2月27日	奈良県・堺県の1部を合わせ五條県を設置した。
1871年	4年7月14日	廃藩置県により、大和国内に奈良・五條・郡山・高取・柳本・芝村・橿羅・小泉・柳生・田原本・和歌山・津・久居・壬生・大多喜の15県が成立した。
	11月22日	大和国一円を管轄する奈良県を設置、県内を添上・添下・平群・山辺・式上・式下・十市・宇陀・高市・広瀬・葛下・葛上・忍海・宇智・吉野の15郡に分ち統轄した。(県令に四条隆平) このとき本県の戸数は95,866戸、人口418,326人となっている。
1876年	9年4月18日	堺県と合併される。
1881年	14年2月7日	堺県が大阪府に合併される。大和15郡を4連合郡役所で所管。
	11月29日	大和国一覧表によれば15郡261町1333村で戸数99,005戸、人口476,709人となっている。
1887年	20年11月4日	大阪府から分離して奈良県が再設置された。
	12月1日	奈良県開庁。(知事に税所篤)
1888年	27日	第1回奈良県議会議員35名の当選告示。
	21年1月9日	第1回奈良県議会在東大寺大仏殿回廊において開かれた。
1889年	22年4月1日	町村制が施行された。10町142村2組合村。

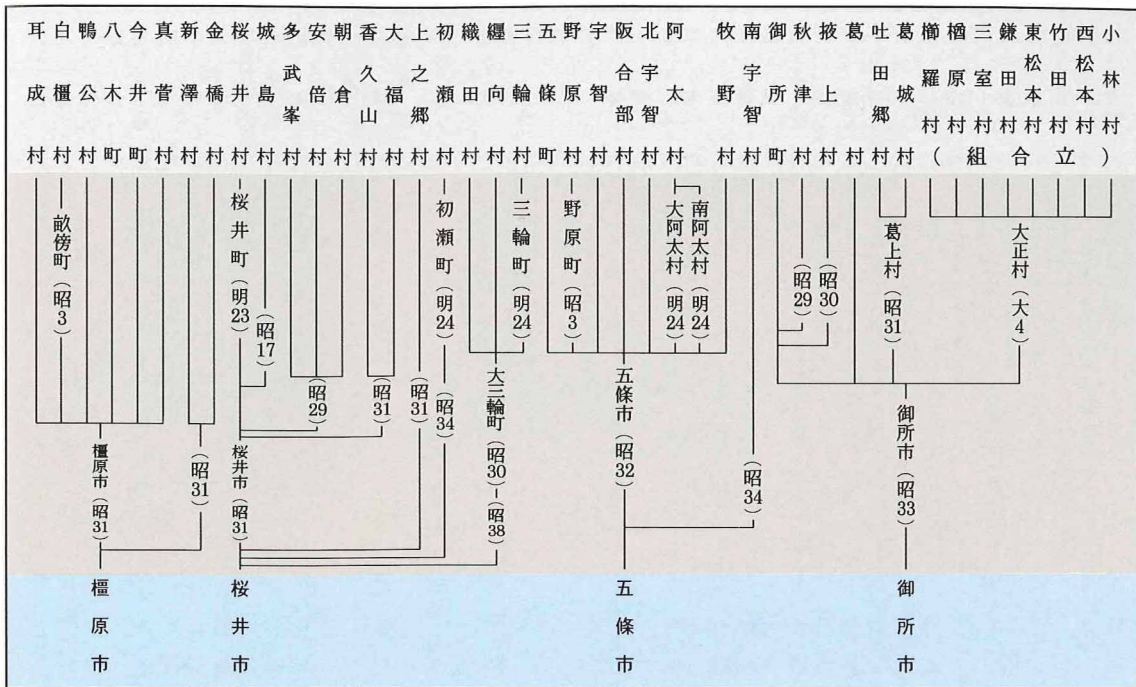


西 暦	年 月 日	事 項
1895年	明治28年12月15日	県庁舎が落成し移庁式を奉行する。
1897年	30年8月1日	郡制が実施され、添上、山辺、宇陀、高市、宇智、吉野の各郡の他、添下・平群を合わせて生駒郡、式上・式下・十市を合わせて磯城郡、広瀬・葛下を合わせて北葛城郡、葛上・忍海を合わせて南葛城郡とし、以上10郡となり各郡に郡役所が置かれた。
1898年	31年2月1日	市制の施行で添上郡奈良町が県内初めての市（奈良市）となる。
1926年	大正15年7月1日	郡役所廃止。
1942年	昭和17年7月1日	県内7ヶ所に地方事務所設置。
1947年	22年4月15日	初の公選知事選挙が行われた。
1955年	30年9月17日	地方事務所を廃止。
1956年	31年10月	吉野熊野特定地域総合開発計画が閣議決定された。
1963年	38年11月	奈良県新総合開発計画を策定した。
1965年	40年3月18日	新県庁舎竣工。
1968年	43年3月	第2次奈良県新総合開発計画を策定した。
1973年	48年3月	奈良県長期基本計画（第3次）を策定した。
1978年	53年3月	奈良県長期基本計画（第3次）〔修正計画〕を策定した。
1984年	59年4月	奈良県長期基本構想を策定した。
	9・10月	わかくさ国体を開催した。
1986年	61年4月1日	町制施行により、9市21町17村となる。
1987年	62年11月4日	奈良県置県100年を迎えた。
	12月1日	第200回奈良県議会を開催した。
1988年	63年3月28日	関西文化学術研究都市（奈良県域）の建設に関する計画が内閣総理大臣の承認を得た。
	4～10月	なら・シルクロード博を開催した。

# 市 町 村 変 遷 表

明治22年	奈良市	大和郡	高田郡	浮城郡	磐城郡	天理郡	郡山	平井	矢野	本多	片桐	櫛本	二階	山辺	福住	柳本
	奈良町	大和町	高田町	浮城町	磐城町	天理町	郡山町	平井町	矢野町	本多町	片桐町	櫛本町	二階町	山辺町	福住町	柳本町
変遷	奈良市 (明31) (大12) (昭15) (昭26)	大和高田市 (昭23) (昭2) (昭16)	大和郡山市 (昭29) (昭16) (昭28)	浮城町 (昭25) (昭28)	磐城町 (昭25) (昭28)	天理市 (昭29) (昭31) (昭32)	郡山 (昭29) (昭16)	平井 (昭29) (昭16)	矢野 (昭29) (昭16)	本多 (昭29) (昭16)	片桐町 (昭25) (昭28)	櫛本町 (明27) (昭25)	二階 (昭29) (昭32)	山辺 (昭29) (昭32)	福住 (昭29) (昭32)	柳本 (大12) (昭32)
現在	奈良市	大和高田市	大和郡山市			天理市	郡山市	平井町	矢野町	本多町	片桐町	櫛本町	二階町	山辺町	福住町	柳本町

(明治22年町村制施行以後)



# 市町村変遷表 (つづき)

北生駒村	南生駒村	北月ヶ瀬村	針ヶ野村	都介野村	東多野村	豊原村	明治村 (平群郡)	三郷村	龍田寺村	法隆寺村	富郷村	安堵西村	川西宅村	三原本町	田野東村	平野東村	川東村	多松山	松始戸村	政始戸村	神始戸村	宇賀太村	宇賀志村	榛原佐村	伊那牧村	室内生松村	三室本松村	東里村 (山辺郡)	曾爾村	御杖村	高取村	越智岡村	船倉村	阪合村	高市村	飛鳥村			
生駒町 (大10)							平群村 (明29)	龍田町 (明24)																															
生駒市	月ヶ瀬村	都祁村	山添村	平群町	三郷町	斑鳩町	安堵町	川西町	三宅町	田原本町	大宇陀町	菟田野町	榛原町	室生村	曾爾村	御杖村	高取町	明日香村																					

(明治22年町村制施行以後)

